

平成27年度武蔵野市立関前南小学校 学校評価

校長 菅原 このみ

評価→ A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:達成がやや不十分である D:達成が不十分である

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	ご意見
かしこく	○児童が「わかった・できた」という達成感を持つことのできる授業づくりを行う。 ○学習規律の確立、学習の習慣の確立により、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	○ねらいと単元の計画を明確に提示し、児童が主体的に学習に取り組む授業づくりの実践を行ってきた。さらに、児童の興味関心を高める授業づくりを行っていく。 ○学習規律は身に付いている児童が多いが、一部の児童に定着が見られないことが課題。 ○家庭学習応援プロジェクトを実施。自主学習に取り組ませた。	B	○学期に1回ずつ全教員が授業を公開する。その後、授業に関するミニ協議会を開き、互いの授業力を高め合っていく。 ○ICTの効果的な活用を進める。 ○算数少人数指導による習熟度別指導、個別支援教室、まなべえの実施により、個に応じた指導を充実させる。 ○関前南小スタンダードを作成し、学習規律・生活規律の徹底を図る。 ○自主学習の取り組みを充実させる。	○家庭学習応援プロジェクトについて ・家庭の中で学習に関心をもたせる取り組みはとてもよい。また、保護者が児童に対して自主学習を応援するというのも、親子の触れ合いにもなってよい。 ・たいへんよい取り組み。児童が自ら課題を見つけていくということがこれから大切だと考える。 ・家庭学習応援プロジェクトは、保護者から見てもよい取り組み。わが子はまだ慣れていないので、何をしたらよいかずっと迷っている姿や課題設定に対する気負いも見られるが、それはそれでよいと思う。徐々に学習内容の工夫をするようになってきている。 ○授業公開・ミニ協議会について
	言語活動の充実を図り、児童が主体的に考える授業づくり、児童が互いに学び合う授業づくりを行う。	校内研究の国語科の授業に単元を貫く言語活動を取り入れ、児童に目的意識、相手意識をもたせながら、主体的に授業に取り組む授業作りを進めたところ、たいへん意欲的に学習に取り組んだ。今後は、課題を設定する力、自己評価を行う力を身に付けさせていく。	B	○来年度は、武蔵野市教育委員会研究奨励校として、29年2月に研究発表会を行う。国語科におけるアクティブラーニングの在り方を探り、研究を深めていく。 ○今後も教科との関連読書等、本を読む機会を意識的に設け、読書の習慣を継続させ、語彙を豊かにし、感性を育てていく。	・先生方が授業を公開し合い、ミニ協議会を開いて互いに切磋琢磨していくことは、授業改善の面で大変有効である。人の授業を見る機会、見せる機会を多くもって、より力を付けて行ってほしい。 ○言語活動の充実について ・アクティブラーニングは、言語活動そのものがアクティブラーニングだと思うが、国語科の中でどのようにチャレンジしていくのか、楽しみにしている。
《学校関係者評価を受けての改善方策》 ○授業公開・ミニ協議会は、今年度3学期に試行してみたところ、職員からも開かれた学校委員からも好評である。来年度は、計画的に進め、教員の授業改善に対する意欲を高めていく。 ○家庭学習応援プロジェクトについては、児童がどのような課題に取り組んだのか、児童の変容はどうであったのか等について保護者に知らせ、さらに充実を図っていく。					
やわらかく	○あいさつ・返事を大切に、温かい人間関係を育む。	○あいさつ運動等を通して、全児童があいさつのできる子という目標をもって取り組んできた。自主的にあいさつすることが次の課題。 ○ふれあい班の異学年交流を通して、互いに思いやり、集団での役割を自覚しながら活動することができた。	B	○折に触れ、あいさつの意義を伝えていく。学校の中だけでなく、地域に出ても同じように自主的に挨拶ができるよう指導を続ける。 ○6年生を中心に、上学年が下学年をリードできるようにしてきた。上学年と下学年の心の交流を大切にしていく。	○あいさつについて ・地域の中であいさつをするのはよいことだが、地域の者として校外で子どもたちに声をかけるのは、どうしたらよいか悩むところである。 ・下校中の児童に対して「お帰り。」と声をかけると、どのように返答してよいか、迷っている様子。「気を付けて帰れよ」と言うど「ありがとうございます。」とちゃんと帰ってくる。 ○ふれあい班活動について
	○人権教育を推進し、いろいろな人への理解を深めることで、人権尊重の意識を育む。	○児童の声を取り入れたいじめ防止基本方針を作成し、いじめ防止に向けた取り組みを発表し意識付けた。 ○全校朝会や学級の児童の中で、児童の良い面を認め、紹介し、自己有用感を高めるように努めた。 ○高齢者会館等との交流や体験学習を通して、自分に何ができるかを考える機会を設けた。	B	○良い面をさらに児童に伝える機会を増やしていく。友達の思いを受け止め、困っている児童へ自ら声をかけられるような接し方ができるように、指導を進めていく。 ○相手を理解することから相手を尊重する気持ちが育まれる。今後も体験活動を大切に、思いやりの心につなげていきたい。	・上学年が下学年をいたわり、下学年が上学年を尊敬するという関係は、たいへんよいと思う。 ・小規模校の良さもあるし、ふれあい活動の効果もあると思うが、学年の違う子ども同士、顔が分かっている楽しそうに話をしているよく姿を見かける。とても良いと思う。 ○よい面を認め紹介することについて ・友達の良さに気付いて、さらにそれを言語化し、可視化させていることが素晴らしい。先生も進んでそれを行っていることも素晴らしい。
《学校関係者評価を受けての改善方策》 ○地域の方への挨拶は、顔を知っているお世話になっている方には必ず挨拶ができるようにしていきたい。そのためにも地域行事などへの参加を続けて呼びかけていく。 ○自己有用感を高めるような取り組みや声掛けを今後も心がけていく。					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	ご意見
たくましく	基本的な生活習慣の定着を進める。	○「姿勢すっきりタイム」のポスターを作成し、各教室で正しい姿勢についての指導を行った。 ○手洗い・うがい・ハンカチの携帯については、呼びかけたが、個人差がある。	B	○常に教室にポスターが掲示されていることで、児童が正しい姿勢についての認識をもつことができた。「姿勢すっきりタイム」の回数を増やし、定着を図っていく。 ○家庭の協力を仰ぎ、習慣づけていく。	○手洗い、うがいについて ・学校でも声掛けをしていただいているが、やはり家庭でしっかりとつけるべきもの。 ○外遊びについて ・地域からゲストティーチャーとして来校していた方々が、子どもたちがよく遊んでいること、先生方も一緒に遊んでくださっていることに驚かれていた。日常、それがあたりまえだと思って過ごしていたが、改めていい学校だと思った。 ○縄跳び大会に向けた練習について ・あそべえでも、外でよく縄跳びの練習をしている。特に5年生は、早朝から大縄の自主練習をしていて、素晴らしいと思う。 ○アレルギーへの対応について ・アレルギー対応には、たいへん細やかに対応しているので、安心する。幼稚園でも、エピペンをもつ子どもが増えてきている。研修を行い、様々な対応をしている。 ・保護者として、家に子どもの友達が遊びに来た時に、おやつについて迷うことがある。最近は、保護者同士で連絡を取り合っている様ではあるが。 ○避難訓練について ・いろいろな想定で避難訓練を行っているのはよいこと。地域の防災訓練に対しても、本校はとても協力的で感謝している。
	運動に親しみ、健康な体づくりに関心をもつ。	○休み時間の外遊びが定着している。関ランタイムや縄跳び大会に向けた練習は、寒い冬に効果的だった。 ○食物アレルギーの把握と、学校医を講師としたエピペン研修会を行い、事故防止に努めている。	A	○職員が校庭で共に活動する姿や、見守る姿は継続していく。 ○外遊びをする機会を増やすことが健康につながることを児童に伝えながら、体育やふれあい班での活動から遊びに発展させるようにしていく。	
	「自分の身は自分で守る」という意識を高く、自己管理能力を高める。	○様々な場面を想定した避難訓練を行っている。事前事後の指導を行うことにより、自助の方法を学ばせている。(3学期は予告なし) ○3年生が地域安全マップ作りを行った。自分の住む町のどこにどのような危険が潜んでいるのかを知り、意識化を図った。	B	○来年度は、防災教育の内容と目標を再検討し、「自分で自分の身を守る」意識をさらに身に付けさせていく。 ○安全指導は、定期的かつ適宜指導しながら、教員と児童の意識を高めていくようにする。	
《学校関係者評価を受けての改善方策》 ○基本的な生活習慣の確立に向け、保護者への啓発を行い、さらなる協力体制を築く。 ○アレルギー対応について、保護者会などの機会を通じて、各家庭で配慮してほしいことについても伝えていく。 ○防災訓練の内容を見直し、改善に努める。					
保護者地域との連携	情報発信と情報交流により、学校の教育活動への関心を高め、協力を仰ぐ。	○ホームページの更新に努め、常に新しい情報を発信した。特に、プレセカンドスクール、セカンドスクールの発信は好評だった。 ○学校公開日や行事などを通して児童の姿を公開することが本校の教育活動の発信となると考え、その後いただいた意見を大いに参考にし、改善に努めている。	A	○ホームページの更新を積極的に進め、さらに各学年の様子や学校の情報を迅速に伝えるようにしていく。 ○来年度は、研究発表会を控えている。研究の取り組みの様子を発信していきたい。	○ホームページについて ・ホームページについては、よく開く人、ほとんど開かない人の差が激しい。よく開く人にとっては、毎日更新してほしいと思うのかもしれないが、可能な限りでよいのではないかと。 ・ネットの環境がこの2～3年の間に激変しており、対応が大変。最近の保護者はパソコンも開けなくなっている。幼稚園ではそれに対応してホームページの内容は、スマートフォンのアプリに切り替えている。
	保護者と共通の認識をもち、連携し合って指導を行う。	○必要に応じて保護者との面談をし、保護者の心情を積極的に理解し、共通の認識をもって児童の指導に当たっている。 ○学校公開日や保護者会を充実させることで、保護者の来校を促し、保護者同士が交流することで互いに協力し合うことができるようにする。	B	○家庭と連絡を取り合うことにより、児童に効果的な指導を行うようにしていく。家庭での子どもへの働きかけも具体的にお願ひしていくようにする。担任と保護者との連携を深めていく。 ○保護者同士の風通しの良い関係づくりに配慮していく。	○保護者との連携について ・最近では合理的な考え方をする人が増え、ややもすると学校はサービスを提供するところだという意識をもつ保護者がいる。 ・あそべえでも、そのような傾向が感じられる。 ・幼稚園でも確実に保護者の意識が変わってきている。保育園と幼稚園では、保護者に対するスタンスがおのずと違う。小学校に進学したときに、両者の保護者の意識には、ずれ生じてくるだろうと考える。
	地域の行事への参加や、地域の人材の活用を図り、地域と連携して児童を育てる。	○地域の行事について児童に知らせ、児童の参加を呼びかけている。教員の地域行事への参加の意識は高い。 ○授業やクラブ活動、まなべえなどで、地域人材を大いに活用している。	B	○地域行事に参加しながら、地域のよさを児童にわかるように伝えていく。効果的な地域の人材活用をさらに進める。職員や子どもが地域とのつながりを実感し、あいさつできる地域の人の数を増やしていく。	○地域との連携について ・地域は学校に対して協力的であり、学校も地域に対して協力的である。本校は、地域にとって「誇れる学校」だと思っている。
《学校関係者評価を受けての改善方策》 ○今後もホームページの内容の精選、更新に努め、学校の情報を発信することで、保護者、地域との連携を深めていく。 ○保護者会、学校便り、学年便り、ホームページ等の機会を通して学校の教育方針を保護者に発信し、保護者の「学校と連携して子どもを育てる」という意識を高めていく。					